

2014

ベーゼンドルファー・ピアノコンサート 聖夜に響く名器の旋律



ゲスト:大森 智子(ソプラノ)

中川 賢一 (ピアノ)

名器ベーゼンドルファーと共に、
ピアニスト中川賢一が聖夜に贈る
スペシャルコンサート

12 / 25 (木)

19:00開演(18:30開場)

ゲストにソプラノ歌手の大森智子を迎え、
特別な一夜を彩ります。

【チケット料金】 全席自由

前売 ¥1,000円

当日 ¥1,200円

※小学生は、保護者同伴になります。

※未就学児の入場はできません。

【チケット発売日】 平成26年11月26日(水)

【チケット取扱い】 さくらんど会館、総合会館

(土・日・祝日を除く 8:30~17:15)

※電話予約は、生涯学習課村松事務所(さくらんど会館内)

0250(58)1133 (受付時間8:30~21:00)

【会場】 五泉市さくらんど会館イベントホール 五泉市村松乙118-2

【主催】 五泉市教育委員会

【問合せ】 五泉市生涯学習課村松事務所(さくらんど会館内) 0250(58)5133 (8:30~17:15)

中川 賢一（なかがわ けんいち） ピアノ

桐朋学園大学音楽学部でピアノを専攻し、同時に指揮も学ぶ。卒業後渡欧し、ベルギーのアントワープ音楽院ピアノ科最高課程、特別課程をそれぞれ優秀、首席の成績を収め修了。在学中にフォルテピアノ、チェンバロも習得。1997年オランダのガウデアムス国際現代音楽コンクール第3位。ベルギー、パリ、英国、オランダ、カナダ、ベネズエラ、メキシコ、韓国など世界各地の音楽祭に出演する他、ドイツ、フランス、スイス、スペイン、ポルトガル、ハンガリー、オランダ、米国、中国、ニューカレドニア、エストニアなど世界各地で演奏活動を行う。1998年帰国後はソロ、室内楽、指揮で活動。新作初演も多い。NHK-FM「名曲リサイタル」「現代の音楽」などに出演し、様々なオーケストラとも協演している。サントリーサマーフェスティバル、東京の夏音楽祭、武生国際音楽祭などの音楽祭に度々参加。2001年度宮城県芸術選奨新人賞受賞。夏木マリの「印象派」シリーズに連続出演、音楽監督も行う他、故・頼近美津子、伊藤ひろ子、平野文らの朗読と音楽、またダンスとの共演など、他分野とのコラボレーションも多い。「Just Composed in Yokohama」、「超難解音楽祭」(仙台)音楽監督・プロデュースなどを行う。オリヴィエ・メシアン「幼子イエスに注ぐ20の眼差し」(2時間)の全曲演奏を2005年以降ほぼ毎年行う他、「鳥のカタログ」(3時間半)などの演奏の他、ジョン・ケージ「ソナタとインターリュード」(1時間)、ジェフスキー作曲「不屈の民変奏曲」(1時間)など現代の大作を演奏する。指揮者としては、東京室内歌劇場においてフィリップ・グラスの「流刑地」、パウル・ヒンデミットの「往きと帰り」、マイケル・ナイマンの「妻を帽子と間違えた男」などの現代オペラを指揮。また、芥川也寸志作曲、オペラ「ヒロシマのオルフェ」では広島交響楽団と共演。東京フィルハーモニー交響楽団とは、2010年タップダンサーの熊谷和徳との共演及び、2012年東日本大震災後被災地での慰問演奏(Youtube「岩泉の春」で検索)で指揮をした。2011年しらかわホールにてマーラー作曲「交響曲第9番」(瀬尾和紀編曲)を指揮。東京フィルハーモニー交響楽団では「ドクトル中川」の名前で、ピアノ演奏とトークで様々な曲のアナリーゼをライブ、ウェブ上(Youtube「ドクトル中川」で検索)で展開他、札幌交響楽団、水戸室内管弦楽団、NHKテレビ「名曲探偵アマデウス」、朝日カルチャーセンター、日仏文化協会バレエセミナーでも、様々な対象へアナリーゼを行っている。アニメーション監督宇井孝司氏と、音楽を聴きながら参加者にイメージを描いてもらった絵をアニメーション化するコラボレーションも展開し、現在、ムソルグスキーの組曲「展覧会の絵」やストラヴィンスキーの「春の祭典」等の作品を発表している。2002年から財団法人地域創造の登録アーティストとして国内各地でアウトリーチ、ワークショップやコンサートを行う一方、「神楽オペラ」(大分県豊後大野市)、「アワビ伝説」(宮城県七ヶ浜町)、「愛の歌」(沖縄県名護市)など地元参加型の舞台作品制作などに指揮者・編曲者として携わる。現代音楽を初めて聞く方へのレクチャーコンサート、ワークショップも積極的にを行い現代音楽の普及にも務めている。子供向けのプロジェクトも多く、未就学児参加可能な演奏会、幼児向けの音楽会のプロデュースも数多く行っている。アンサンブル・ノマドのピアニスト・指揮者。お茶の水女子大学、桐朋学園大学非常勤講師。

大森 智子(おおもり ともこ) ソプラノ

昭和音楽大学卒業、特別賞受賞。パリ・エコールノルマル音楽院を審査員全員一致の首席で卒業、審査員特別賞受賞。パリ国立高等音楽院にてさらに研鑽を積む。在仏中、ナンテール市での「カルメン」のミカエラ、パリ・オペラ座での「カルメル会修道女の対話」等に出演。また、フランス国内やベルギーなどで宗教曲コンサートや各種コンサートに多数出演。帰国後、昭和音楽大学オペラ「リータ」のタイトルロールで出演、その後も「愛の妙薬」のアディーナ、「夢遊病の娘」のアミーナと続けて出演し、2004年「ルチア」のタイトルロールで好評を得る。2000年新国立劇場に「トスカ」の羊飼いでデビュー後、翌年には藤原歌劇団に「マクベス」の幻影でデビュー。次いで「イル・カンピエッロ」のニエーゼを好演。2013年2月藤原歌劇団「仮面舞踏会」のオスカルに出演し、好評を博した。また、コンサート歌手としても、全国各地でおしゃべりや語りを交えたコンサート活動を行うほか、宗教曲、イタリア初期バロックやフランスバロックの作品を歌い、ソロリサイタルやラモーのオペラに出演するなど、そのみずみずしい感性に透明感と温もりを併せ持つ声で活躍している。CDは「モンテヴェルディ・デュオ集～祈りの歌」と、日本の童謡からオリジナルまでを集めた「やわらかな歌」があり、NHK-FMでも紹介されている。また楽譜の監修には「ピアノと歌うアヴェマリア」「ピアノと歌うオペリア」「ピアノと歌う世界の歌曲」などあり、最新刊は「ピアノと歌う愛の歌」(ヤマハミュージックメディア)。これまでに細川久美子、南條年章、エディット・セリグ、ペーテル・ゴットリーブ、牧野正人の諸氏に師事。2000年文化庁芸術インターンシップ研修員。第16回日本古楽コンクール第2位(声楽で最高位)。(財)地域創造・公共ホール音楽活性化事業アーティスト。昭和音楽大学講師。藤原歌劇団団員。